

帯状疱疹の予防接種を受けられる方へ

1. 帯状疱疹について

帯状疱疹は、多くの方が子供のときに感染する水ぼうそうのウイルスが原因で起こります。水ぼうそうが治った後も、ウイルスは体内（神経節）に潜伏していて、過労やストレスなどで免疫力が低下すると、ウイルスが再び活性化して、帯状疱疹を発症します。

体の左右どちらかの神経に沿って、痛みを伴う赤い斑点と水ぶくれが多数集まって帯状に生じます。発症すると、皮膚の症状だけでなく、神経にも炎症を起こし、痛みがあらわれます。神経の損傷がひどいと、皮膚の症状が治った後も、痛みが続くことがあります。50歳以上で帯状疱疹を発症した人のうち、約2割は3か月以上痛みが続く帯状疱疹後神経痛になるといわれています。帯状疱疹ウイルスは90%以上の日本人に潜伏しています。いつ、体のどの部分に発症するかは分かりません。基礎疾患のある方は特に発症リスクが増大します。

2. 他のワクチンとの接種間隔

厚生労働省はこれまで、異なる種類のワクチンを接種する場合、一定の日数を空ける接種間隔を規定していました。この度、この規定が見直され、注射生ワクチン同士を接種する場合以外は、接種間隔の制限を撤廃することになりました。令和2年10月1日以降適応されます。

一方、同一ワクチンの接種間隔は従来どおりになりますのでご注意ください。

3. 次の方は接種を受けないで下さい

- ① 妊娠している方および妊娠している可能性のある方（接種前1ヶ月間は要避妊）は接種することができません。ワクチン接種後は少なくとも2ヶ月間の避妊が必要です。
- ② ワクチンを受ける3ヶ月以内に輸血やガンマグロブリン製剤の投与を受けたことがある方、また6ヶ月以内にガンマグロブリン製剤の大量療法（200mg/kg以上）を受けたことがある方は、免疫が十分にできませんので、接種を延期する必要があります。接種について主治医にご相談下さい。
- ③ 明らかに発熱している方
- ④ 重い急性疾患にかかっている方
- ⑤ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する方、免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ⑥ 帯状疱疹ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方
アナフィラキシー反応とは…急激に起こる「じんましん、口腔や咽頭のアレルギー性腫脹、喘鳴、呼吸障害、血圧低下」等のショック症状
- ⑦ 帯状疱疹ワクチンを受ける27日以内に他の生ワクチン（注射剤）を接種した方は、免疫が十分にできませんので、接種を延期する必要があります。あらかじめ健康センターへご連絡ください。
- ⑧ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方
(予診の結果、接種が不適当と考えられる場合は中止することがあります。)

4. 次の方は接種前医師にご相談下さい

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱あった方及び全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のあった方
- ③ 過去にけいれんの既往のある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ 帯状疱疹ワクチンに含まれる成分に対してアレルギーを起こす恐れのある方

5. 帯状疱疹ワクチンの接種スケジュール

1回0.5mlを皮下に注射します。

6. 接種後の副反応

接種後30分以内に「ショック、アナフィラキシー（じんましん、口腔や咽頭のアレルギー性腫脹、喘鳴、呼吸障害、血圧低下等）」（0.1%未満）、接種後、数日から3週頃に、紫斑（皮膚や粘膜にできる紫色の斑点）・鼻出血・口腔粘膜の出血等の「血小板減少性紫斑病」（0.1%未満）があらわれることがあります。これらの副反応が出た際は医師にご相談下さい。

その他、接種直後から数日中に発熱・発疹（1%未満）、じんましん・掻痒・紅斑（赤い斑点）等の過敏症があらわれることがあります。接種部位に発赤・腫脹（1～5%未満）、硬結等があらわれることがあります。また接種後1～3週間頃に、発熱・発疹（1～5%未満）、水疱性発疹（1%未満）があらわれることがあります。一過性で通常、数日中に消失します。

7. 接種後の注意

- ① 接種当日は過激な運動を避け、接種部位を清潔に保ちます。
（入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすらないようにしましょう。）
- ② 接種後（直後～14日間）は健康状態に留意して下さい。局所の異常反応や異常な症状（高熱、けいれん等）を呈した場合は下記までご連絡下さい。
- ③ 妊娠可能な女性については、接種後2ヶ月間は避妊して下さい。